

特集「建設分野の魅力」第45回

上郡高生が体験学習



情報通信技術（ICT）の導入や働き方改革などが進み、「きつい」「危険」「汚い」の3Kから「給料がよい」「休暇が取れる」「希望が持てる」の新3Kへの転換を図る建設業界。兵庫県は将来を担う技術系

佐用町大願寺地区
急傾斜地崩壊対策工事

幅58m、高さ10mの世谷川砂防堰堤（砂防ダム）を間近で見学した

高校生に、そんな業界の現状を知ってもらう現場見学会を開いている。県上郡高校地域環境科（土地改良類型）2年の男女12人も、西播地域での急傾斜地崩壊対策工事の現場を訪れた。生徒たちはスケールの大きな構造物を間近で見学し、最新デジタル機器に触れるなどして建設業への関心を深めた。

（取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会）



未来につなぐ
つくるひと・まもるひと

壮大な現場 若い夢刺激

最新機器で擁壁測定体験

上郡高校の生徒が訪れたのは、学校から約20分北の佐用町大願寺地区。急傾斜地の麓に立つ民家や公園を駆け上り、から守るための土木工事が行われている現場で、ヘルメットと作業着姿で見学した。同地区の急傾斜地崩壊対策



デジタル化による省力実感

築工事について、光部土木事務所の職員が「斜面の角度30度、高さ5m以上の山地が対象」「兵庫県は県土の約7割が山地。全対象にハート対策を行うことは不可能なため、情報量が多量な3次元データを用いたソフト対策と面識で土砂災害対策を進めている」と説明した。



3次元データが作製できる「3Dレーザースキャナー」の点群計測の方法を学ぶ。写真右は、計測を基に作製された3次元データ画像



西原弘達さん



西原絵梨子さん

県職員が見学前に講義

建設業のやりがい伝える

現場見学会の前に、建設業の基礎知識を学ぶ講義が校内であった。兵庫県土木部技術企画課の山形真央さん、県光都土木事務所河川砂防第2課の高橋伸明さん、井上寛一さん

現場見学会の前に、建設業の基礎知識を学ぶ講義が校内であった。兵庫県土木部技術企画課の山形真央さん、県光都土木事務所河川砂防第2課の高橋伸明さん、井上寛一さん



現場見学会の前に、県職員を講師に招き建設業の基礎知識を学んだ



高橋伸明さん



山形真央さん



「地図に残る仕事、工事を発注する側の行政は「地図」に残る仕事」と話した。また、井上さんは「測量、設計から現場管理まで一貫して携われるのが土木行政職の魅力」とし、上郡高校地域環境科の卒業生で入庁2年目の高津さんは「考え、考えたことが形になるやりがいは大きい。高校で学んだことは必ず将来の役に立つ」と後輩たちに伝えた。

神原昂大さん 協力して働く 姿にわくわく

父が工場で働く様子や、家を作る大工さんを見たりするのが好きで、幼い頃からものづくりに憧れていた。現場見学でいろいろな人が協力して働く姿にわくわくし、こんなふう現場作業に携わりたと思った。将来は地図に残るような大きなものをつくりたい。

水谷洵天さん 現場の測量は 進化している

現場で働く人たちが優しく教えてくれて、抱いていた印象とすごく違った。住民の命や安全を陰で支える仕事はとてもカッコいい。学校では測量作業を手動で行っているが現場は随分進化している。機器の使い方は難しかったけど、覚えて使いこなせたら便利だと思う。

森山大暉さん 作業を間近に 見られて新鮮

高校で新しいことを学びたくて上郡高のオープンスクールに参加し、ドローンを使った測量体験が面白くて土木を学ぶ学科に進んだ。今日は普段立ち入ることができない工事現場で作業を間近で見られて新鮮だった。公務員として建設業に関わりたいため、具体的な話が聞けてよかった。

南海生さん 建設行政の道 目指し頑張る

建設業は住民の役に立ったり命を守ったりする大切な仕事。人々の喜びを間近で感じられるのが魅力だ。ボタン一つで機械がやってくれる仕事が増えていることもこの見学会で知った。上郡高の先輩が生き生きと仕事している様子を見て、建設行政の道を目指して頑張ろうと思った。